

小学生～高校生相当年齢の予防接種スケジュール

Ver 4

国立感染症研究所 感染症疫学センター

- 注1) 本スケジュール案は、2013年11月現在、接種可能な主なワクチンをすべて受けると仮定して1例を示したものです。接種の順番や受けるワクチンの種類については、お子様の体調や周りの感染症発生状況によって、異なってきます。詳しくはかかりつけの医療機関、保健所等でご相談ください。
- 注2) 接種に際しては次の決まりがあります。スケジュールを立てるときの参考にしてください。別の種類のワクチンを接種する場合は、以下のように接種することになっています。
- 「生ワクチンの接種後は、中27日(いわゆる4週間)以上あけて受けます。(例:月曜日に接種したら次は4週間後の月曜日以降に受けます。)」
- 「不活化ワクチン接種後は、中6日(いわゆる1週間)以上あけて受けます。(例:月曜日に接種したら次は翌週の月曜日以降に受けます。)」

2013年11月1日改訂

小学生～高校生相当年齢の予防接種スケジュール

- * 2013年6月14日の厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会での検討により、現在、積極的な勧奨は差し控えられています。ただし、定期接種としては接種可能です。
- ※ 日本小児科学会推奨案
- 生ワクチン** 別の種類のワクチンを接種する場合は、中27日(いわゆる4週間)以上あけて受けます。(例:月曜日に接種したら次は4週間後の月曜日以降に受けます。)
- 不活化ワクチン** 別の種類のワクチンを接種する場合は、中6日(いわゆる1週間)以上あけて受けます。(例:月曜日に接種したら次は翌週の月曜日以降に受けます。)
- 不活化ワクチン** 別の種類のワクチンを接種する場合は、中6日(いわゆる1週間)以上あけて受けます。(例:月曜日に接種したら次は翌週の月曜日以降に受けます。)
- 注射の生ワクチン
- 注射の不活化ワクチン

小学生～高校生相当年齢の予防接種スケジュール

注) 本スケジュール案は、2013年11月現在、接種可能な主なワクチンをすべて受けると仮定して1例を示したものです。接種の順番や受けるワクチンの種類については、お子様の体調や周りの感染症発生状況によって、異なってきます。詳しくはかかりつけの医療機関、保健所等でご相談ください。

制度	学年	小学校1年生	小学校2年生	小学校3年生	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生	高校1年生相当年齢	高校2年生相当年齢	高校3年生相当年齢	接種回数		
	年齢	6～7歳	7～8歳	8～9歳	9～10歳	10～11歳	11～12歳	12～13歳	13～14歳	14～15歳	15～16歳	16～17歳	17～18歳	ワクチンの接種	接種回数	
定期接種	DT (ジフテリア・破傷風)						○ (11歳以上13歳未満で1回)							DT (ジフテリア・破傷風)	1回	
	日本脳炎				○ (9歳以上13歳未満で1回) : 第2期									日本脳炎	1回	
	HPV* (ヒトパピローマウイルス) 2価または4価													HPV* (ヒトパピローマウイルス) 2価または4価	4回(不足分)	
定期外接種 (任意接種)	水痘	●	●	4週以上の間隔をあけて2回接種 (2回の接種が終了していない場合は足りない回数分をこの期間に接種)										水痘	2回※ (不足分)	
	おたふくかぜ	●	●	4週以上の間隔をあけて2回接種 (2回の接種が終了していない場合は足りない回数分をこの期間に接種)										おたふくかぜ	2回※ (不足分)	
	インフルエンザ	○○ 毎年10～11月に2～4週の間隔で2回接種(1回目と2回目は、できれば3～4週間空ける)。遅くとも12月中旬までに2回目の接種を終了させる。							●または○○ (13歳以上は、毎年10～11月に1回(または1～4週間間隔で2回)遅くとも12月中旬までに接種を終了させる。)						インフルエンザ	毎年2回 または1回
	B型肝炎※	○○○ (4週間隔で1回、20～24週を経過した後に1回) 3回接種 (1回 0.25ml)					○○○ (4週間隔で1回、20～24週を経過した後に1回) 3回接種 (1回 0.5ml)								B型肝炎※	3回
	A型肝炎							○○○ (2～4週間隔で2回、24週を経過した後に1回) 3回接種							A型肝炎	3回

小学生～高校生相当年齢の予防接種スケジュール

お子様のスケジュールを書き込んで下さい。

※ 2013年6月14日の厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会での検討により、現在、積極的な勧奨は差し控えられています。ただし、定期接種としては接種可能です。

※ 日本小児科学会推奨案

生ワクチン 別の種類のワクチンを接種する場合は、中27日(いわゆる4週間)以上あけて受けます。(例:月曜日に接種したら次は4週間後の月曜日以降に受けます。)

不活化ワクチン 別の種類のワクチンを接種する場合は、中6日(いわゆる1週間)以上あけて受けます。(例:月曜日に接種したら次は翌週の月曜日以降に受けます。)

不活化ワクチン 別の種類のワクチンを接種する場合は、中6日(いわゆる1週間)以上あけて受けます。(例:月曜日に接種したら次は翌週の月曜日以降に受けます。)

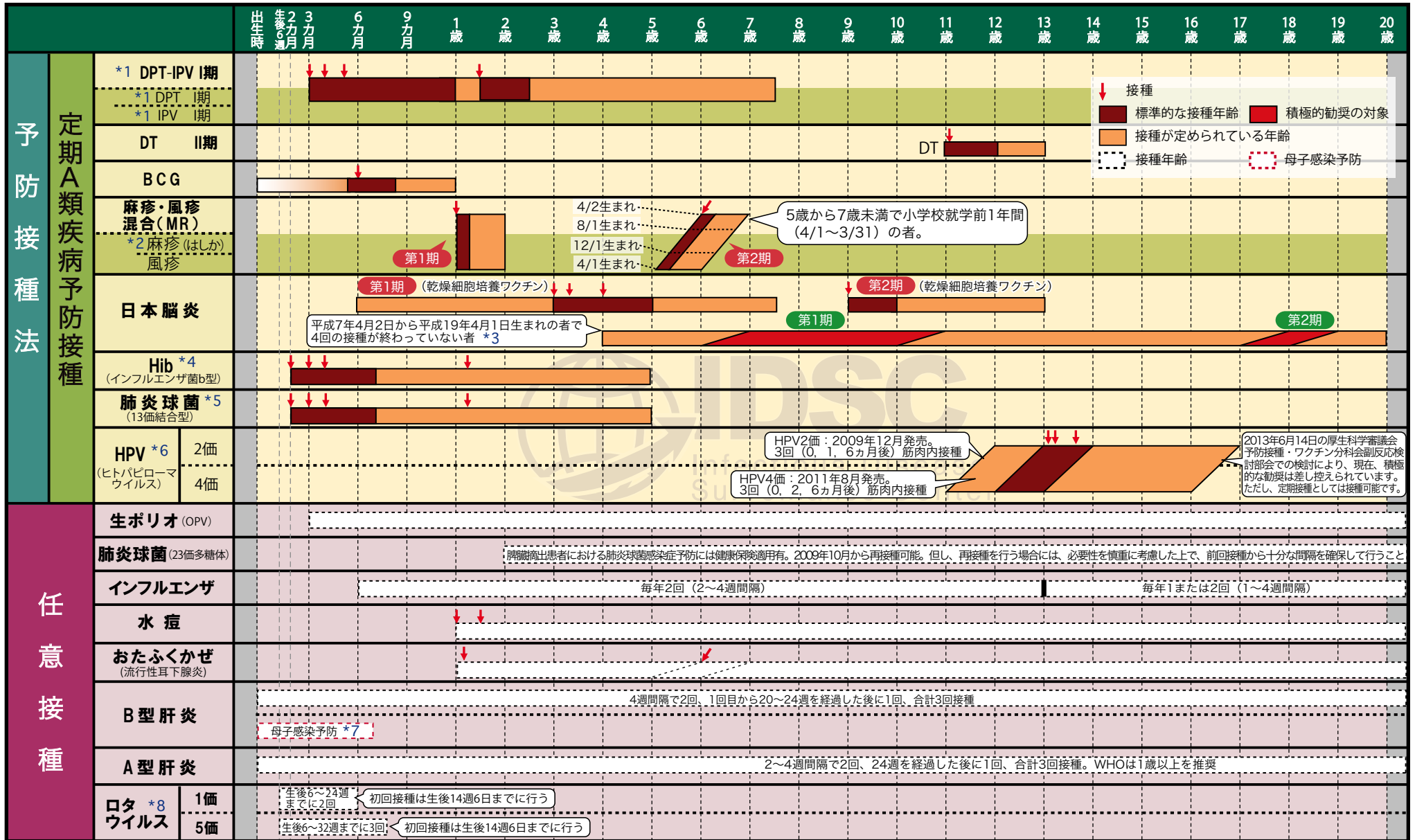
- 注射の生ワクチン
- 注射の不活化ワクチン

お子様の氏名		生年月日	年 月 日
--------	--	------	-------

小学生～高校生相当年齢の予防接種スケジュール

注) 本スケジュール案は、2013年11月現在、接種可能な主なワクチンをすべて受けることと仮定して1例を示したものです。接種の順番や受けるワクチンの種類については、お子様の体調や周りの感染症発生状況によって、異なってきます。詳しくはかかりつけの医療機関、保健所等でご相談ください。

制度	学年	小学校1年生	小学校2年生	小学校3年生	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生	高校1年生相当年齢	高校2年生相当年齢	高校3年生相当年齢	接種完了チェックリスト			インフルエンザ				
	年齢	6～7歳	7～8歳	8～9歳	9～10歳	10～11歳	11～12歳	12～13歳	13～14歳	14～15歳	15～16歳	16～17歳	17～18歳	ワクチンの接種	接種回数	ワクチンを接種したら、接種した年月日を書き込んで下さい			ワクチンを接種したら、接種した年月日を書き込んで下さい		
定期接種	DT (ジフテリア・破傷風)													DT (ジフテリア・破傷風)	1回				7歳		
	日本脳炎													日本脳炎	1回				8歳		
	HPV* (ヒトパピローマウイルス) 2または4価													HPV* (ヒトパピローマウイルス) 2価または4価	3回				9歳		
定期外接種 (任意接種)	水痘													水痘	2回※ (不足分)				10歳		
	おたふくかぜ													おたふくかぜ	2回※ (不足分)				11歳		
	インフルエンザ													インフルエンザ	毎年2回 または 毎年1回	隣の表をお使い下さい→ 6～12歳迄は毎年2回 13歳以降は毎年1回			12歳		
	B型肝炎※													B型肝炎※	3回				13歳		
	A型肝炎													A型肝炎	3回				14歳		
																			15歳		
																			16歳		
																			17歳		
																			18歳		



*1 D:ジフテリア、P:百日咳、T:破傷風、IPV:不活化ポリオを表す。IPVは2012年9月1日から、DPT-IPV混合ワクチンは2012年11月1日から定期接種に導入。回数は4回接種ですが、OPV(生ポリオワクチン)を1回接種している場合は、IPVをあと3回接種します。OPVは2012年9月1日以降定期接種としては使用できなくなりました。IPVで接種を開始した場合、DPT-IPVで接種を開始した場合は、それぞれ原則として同じワクチンで接種を完了します。

*2 原則としてMRワクチンを接種。なお、同じ期内で麻疹ワクチンまたは風疹ワクチンのいずれか一方を受けた者、あるいは特に単抗原ワクチンの接種を希望する者は単抗原ワクチンを接種。

*3 第1期・第2期で受けそびれていた人も、平成7年4月2日~平成19年4月1日生まれの人は、20歳未満であれば特別対象者として残りの回数を定期接種として受けられます。なお、平成25年度に7歳、8歳、9歳、10歳となる者への第1期、18歳となる者への第2期は積極的勧奨の対象となります。

*4 2008年12月19日から国内での接種開始。生後2ヵ月以上5歳未満の間にある者に行うが、標準として生後2ヵ月以上7ヵ月未満で接種を開始すること。接種方法は、通常、27~56日までの間隔で3回皮下接種(医師が必要と認めた場合には20日間隔で接種可能)。接種開始が生後7ヵ月以上12ヵ月未満の場合は、通常、27~56日までの間隔で2回皮下接種(医師が必要と認めた場合には20日間隔で接種可能)。初回接種から7~13ヵ月後に、1回皮下接種。接種開始が1歳以上5歳未満の場合、通常、1回皮下接種。

*5 2013年11月1日から7価結合型にかわって定期接種に導入。7価を1回受けている人は残り3回を13価で、7価を2回受けている人は残り2回を13価で、7価を3回受けている人は残り1回を13価で受けます。7価を1回も受けていない人は生後2ヵ月以上7ヵ月未満で開始し、27日間隔で3回接種。追加接種は通常、生後12~15ヵ月に1回接種の合計4回接種。接種もれ者には、次のようなスケジュールで接種。生後7ヵ月以上12ヵ月未満の場合: 27日以上の間隔で2回接種したのち、60日間以上あけてかつ1歳以降に1回追加接種。1歳: 60日間以上の間隔で2回接種。2歳以上9歳以下: 1回接種。なお60月以上は、任意接種。

*6 互換性に関するデータがないため、同一のワクチンを3回続けて筋肉内に接種。接種間隔はワクチンによって異なる。

*7 健康保険適用:【HBワクチン】通常、0.25mLを1回、生後12時間以内を目安に皮下接種(被接種者の状況に応じて生後12時間以降とする事も可能。その場合であっても生後できるだけ早期に行う)。更に、0.25mLずつを初回接種の1ヵ月後及び6ヵ月後の2回、皮下接種。ただし、能動的HBs抗体が獲得されていない場合には追加接種。【HBIG(原則としてHBワクチンとの併用)】初回注射は0.5~1.0mLを筋肉内注射。時期は生後5日以内(なお、生後12時間以内が望ましい)。また、追加注射には0.16~0.24mL/kgを投与。平成25年10月18日から接種時期変更(厚労省課長通知)

*8 ロタウイルスワクチンは初回接種を1価で始めた場合は「1価の2回接種」、5価で始めた場合は「5価の3回接種」。1回目の接種は生後14週+6日までに進行することが推奨されています。